

平成27年度 血液事業への取り組みについて



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

平成28年9月14日（水）
血液事業部会運営委員会

1 平成27年度の事業報告

(1) 血液製剤の安定供給

輸血を必要とする全ての患者に必要な血液を適時に提供する。

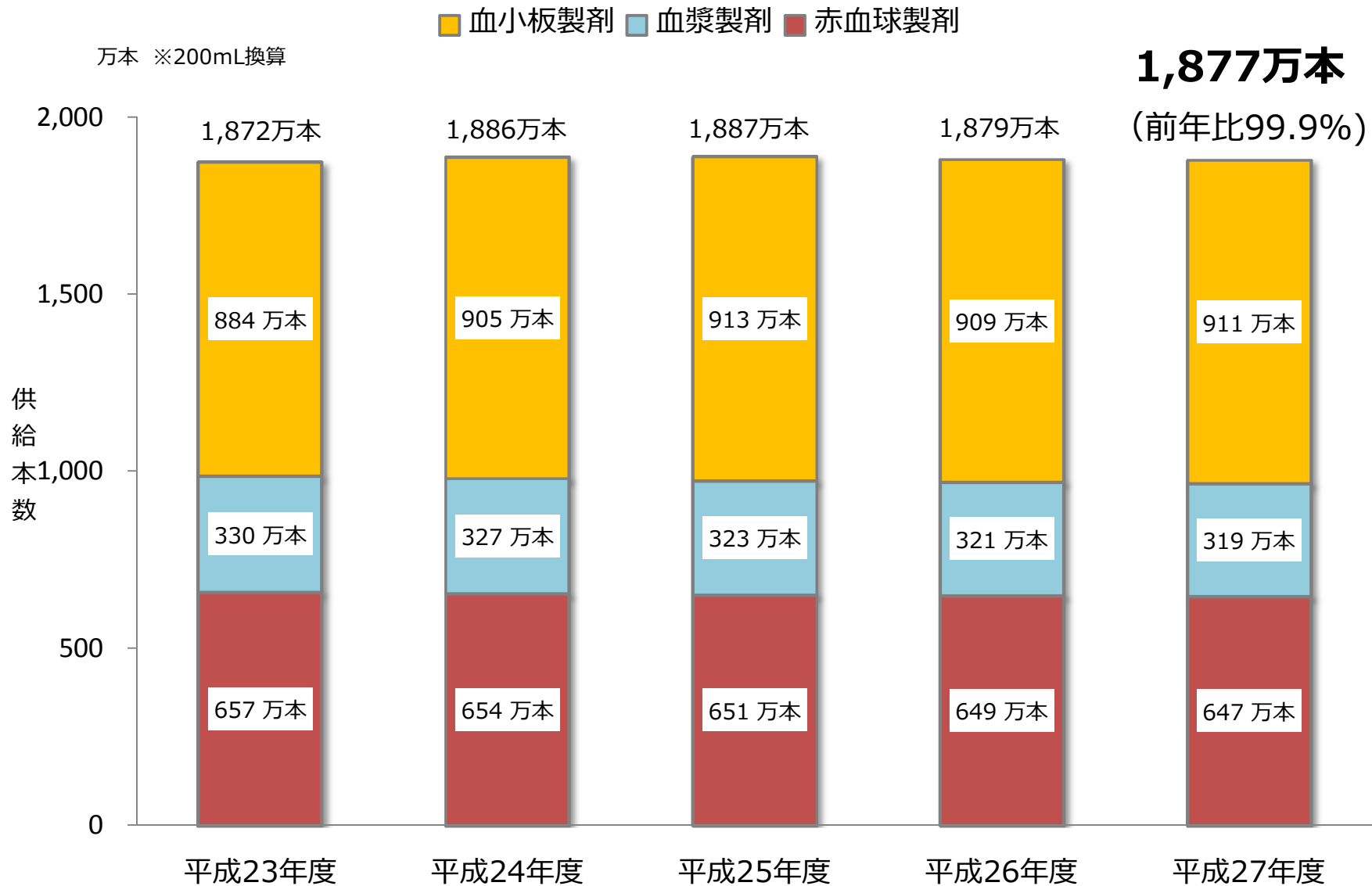
- 輸血を行う医療機関数 1万ヶ所
- 年間供給本数 1,877万本 ※200mL献血由来製剤を1本と換算
- 年間献血者数 488万人

※延べ人数(実人数は283万人)

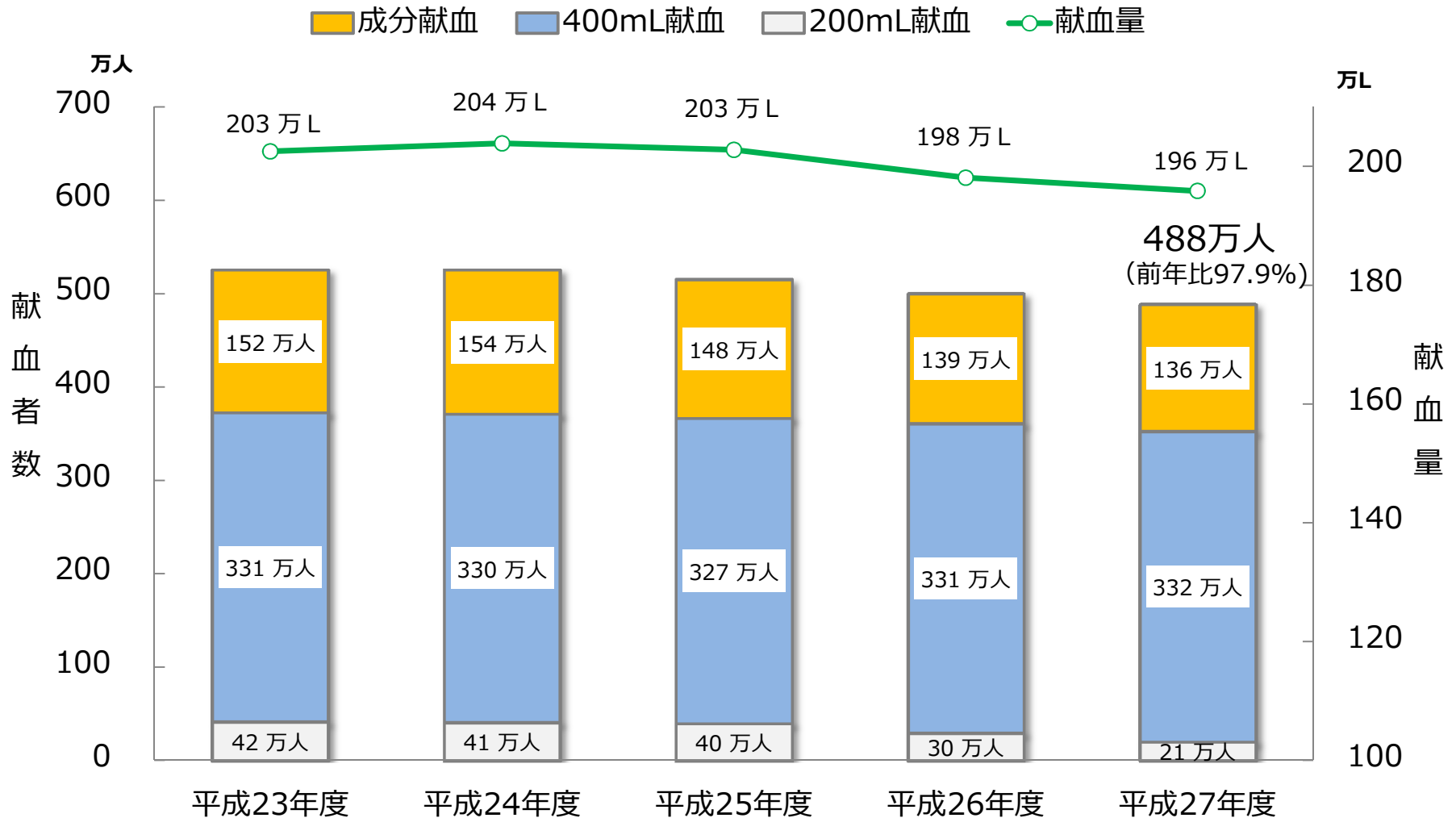
適正な在庫量を常時確保



(2) 輸血用血液製剤の供給量推移

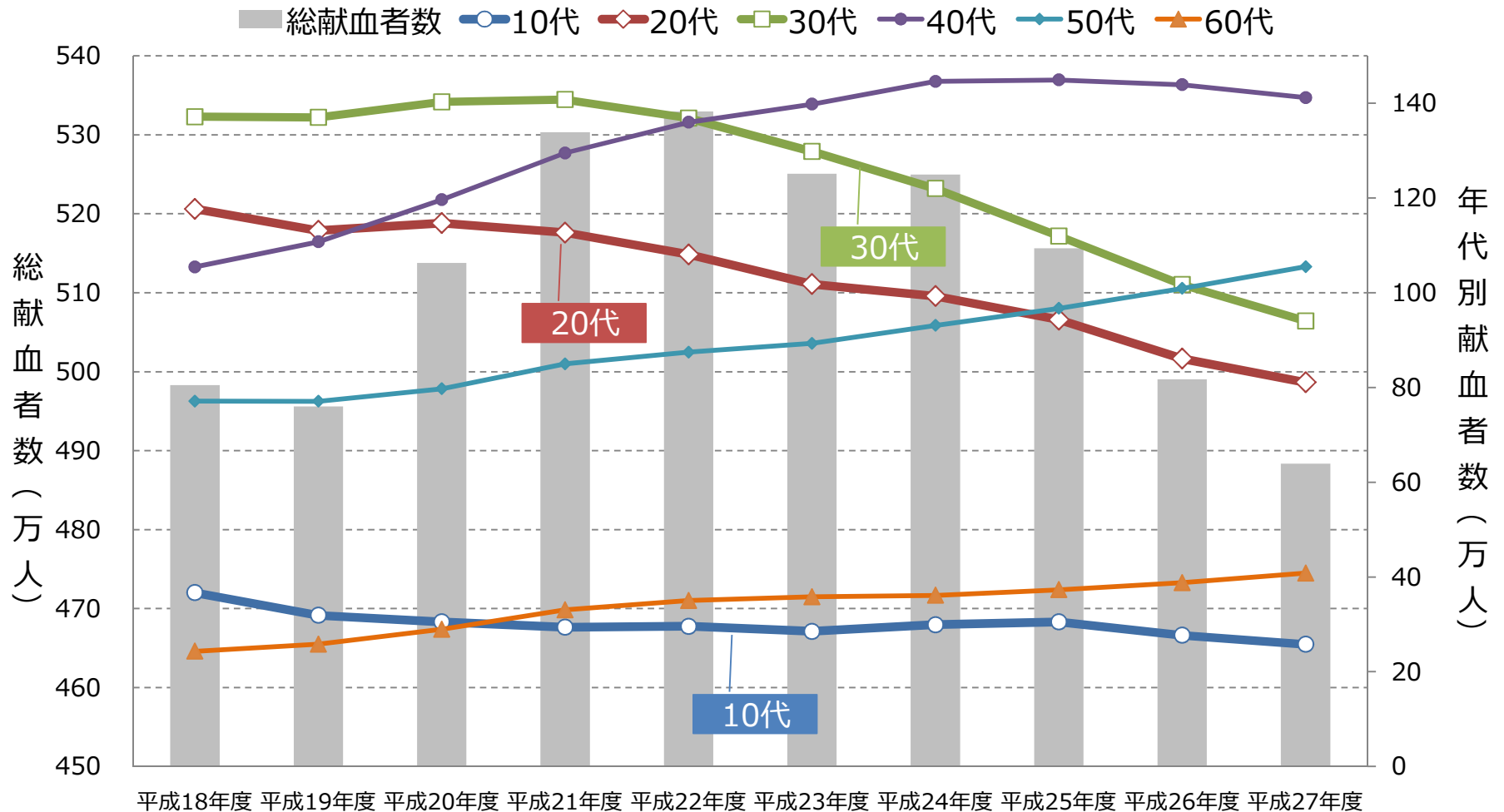


(3) 献血者数の推移



微減傾向にありますが、必要とされる献血量は賄えています。

(4) 年代別献血者数の推移



10～30代の献血者数が減少傾向にあります。

(5) 若年層に対する献血の普及啓発

将来にわたる血液製剤の安定確保のために
協力層の拡大を図る。

- 各種キャンペーンの実施

雑誌、放送媒体、ソーシャルネットワーク等の様々な手段を活用

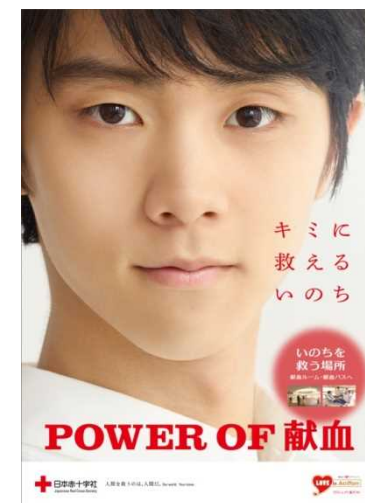
- 学校教育等における献血セミナーの実施

小・中・高・大学等にて1,211回開催(17万人参加)

赤十字施設にて361回開催(9千人参加)

- 学生献血ボランティアの育成

学生自らイベント等を企画・運営し、同世代から働きかけ



(6) 血液製剤の安全性向上

輸血の安全性向上を図る。

- 副作用低減に寄与する新規製剤の導入

洗浄血小板製剤の供給開始(H28年度予定)に向けた準備を進行

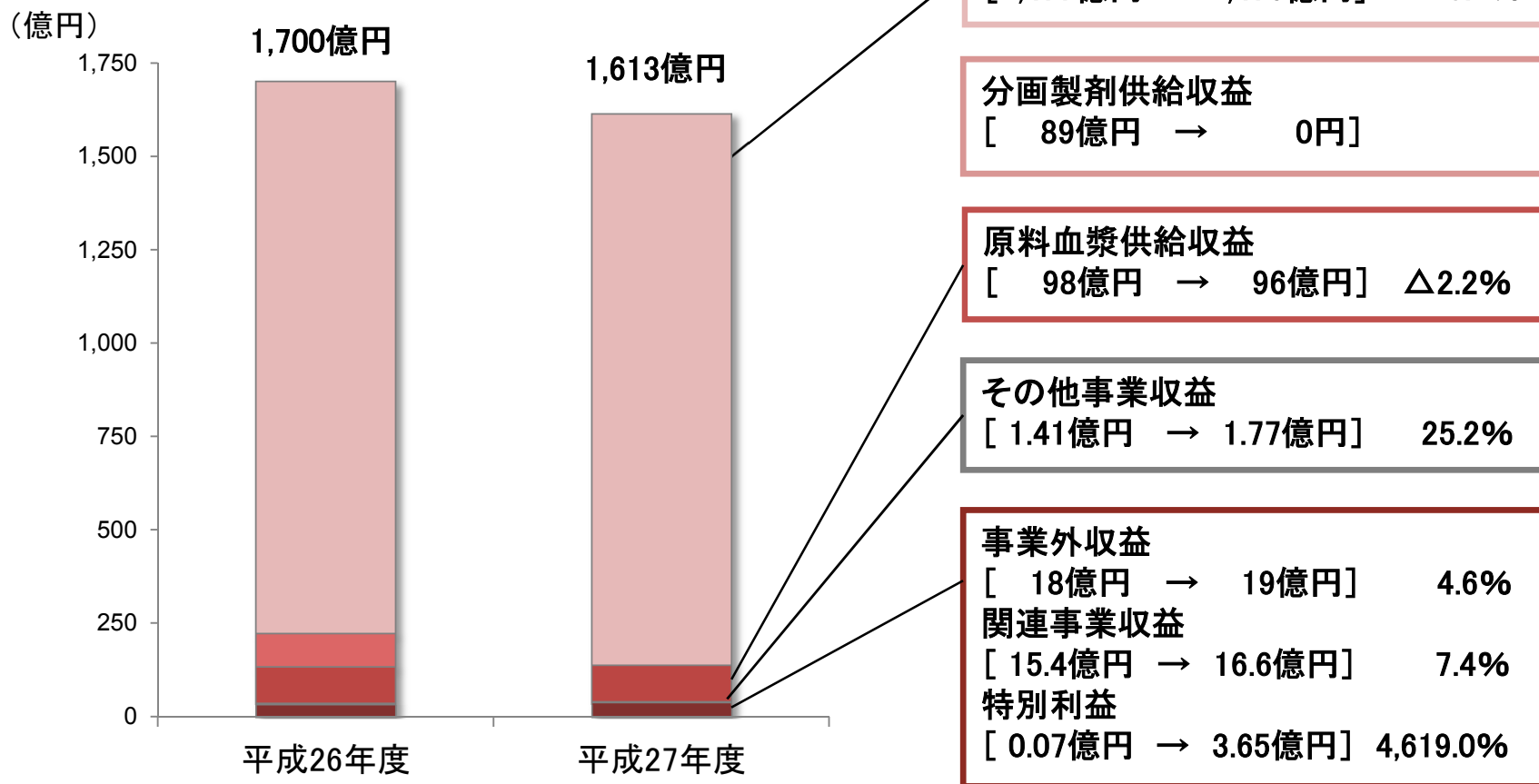
- 新たな感染症対策の検討

E型肝炎、シャーガス病等の新興・再興感染症に対し、新たな検査の実施や、混入した病原体等の感染性を低減化する技術導入に向けた準備を進行



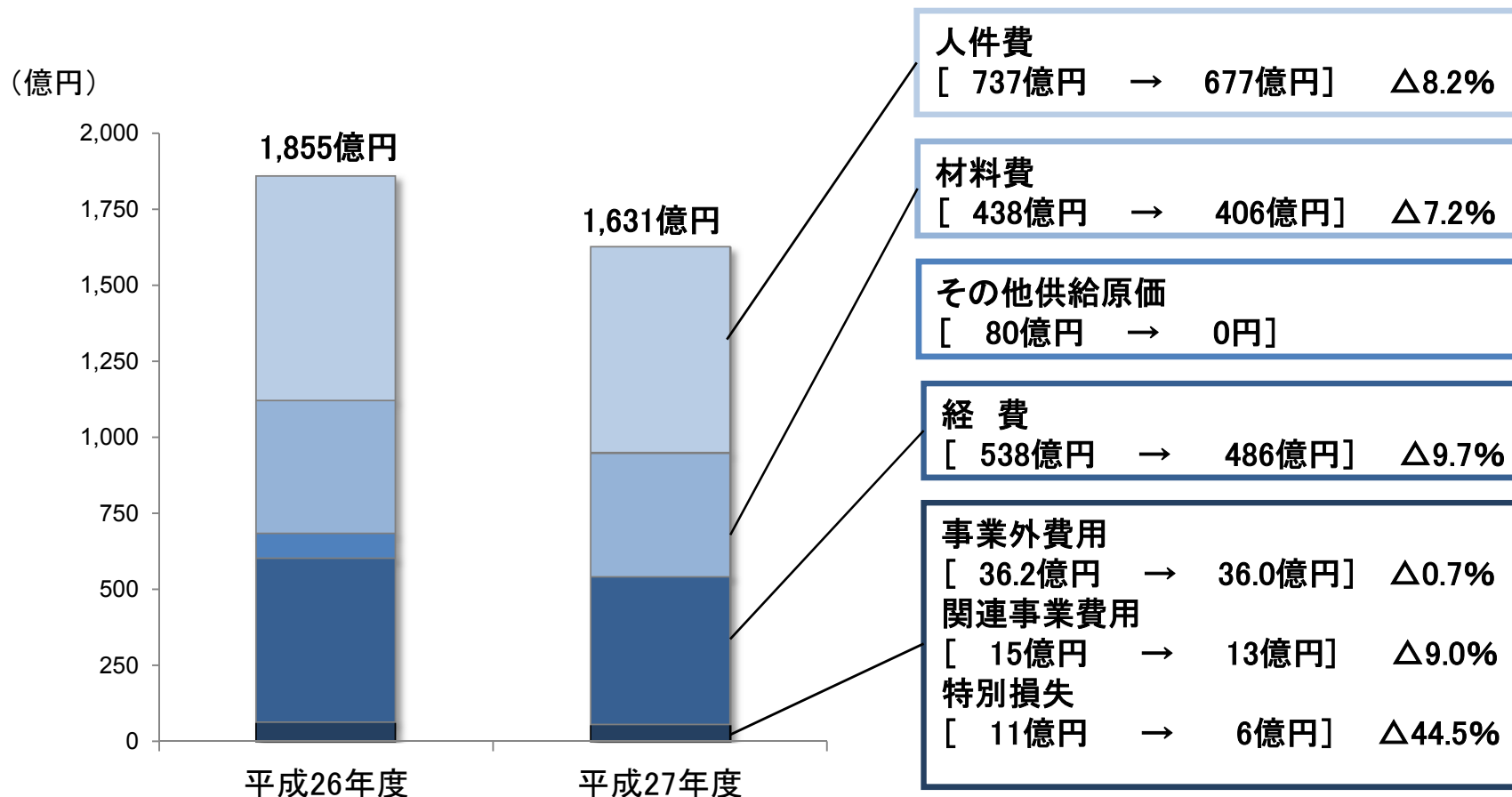
2 血液事業特別会計歳入歳出決算概要

(1) 収益的収入のあらまし



	平成26年度	平成27年度	増減率
収益的収入合計	1,700億円	1,613億円	△5.1%

(2) 収益的支出のあらまし



	平成26年度		平成27年度	増減率
収益的支出合計	1,855億円	→	1,631億円	△12.1%
収支差引額	△155億円	→	△17億円	

138億改善

(3) 収支改善の主要因

平成26年度における一過性費用の減少 $\Delta 103$ 億円

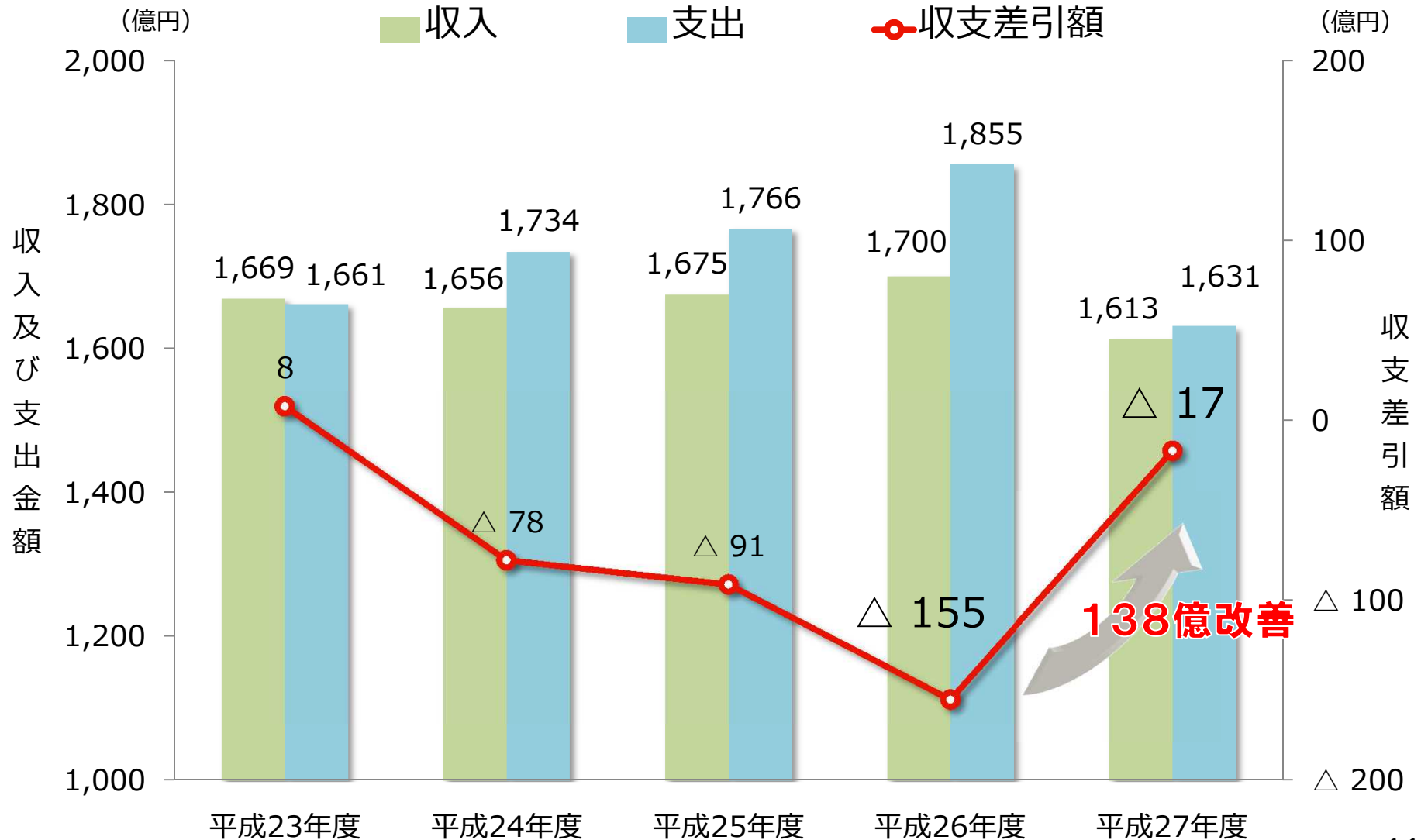
ア 退職給付債務割引率変更	$\Delta 54$ 億円
イ 情報システム開発等に伴う費用	$\Delta 31$ 億円
ウ 個別NAT導入時危機管理費用	$\Delta 10$ 億円
エ 照射装置廃棄費用	$\Delta 8$ 億円

費用削減努力による減少 $\Delta 45$ 億円

ア 単価交渉と効率的な採血による削減	$\Delta 22$ 億円
イ 経費削減	$\Delta 21$ 億円
ウ 人件費(人員削減及び時間外手当等)	$\Delta 2$ 億円

この他に分画製剤販売終了や輸血用血液製剤の供給減等による収入減($\Delta 10$ 億円)があり、差引**138億円の収支改善**となった。

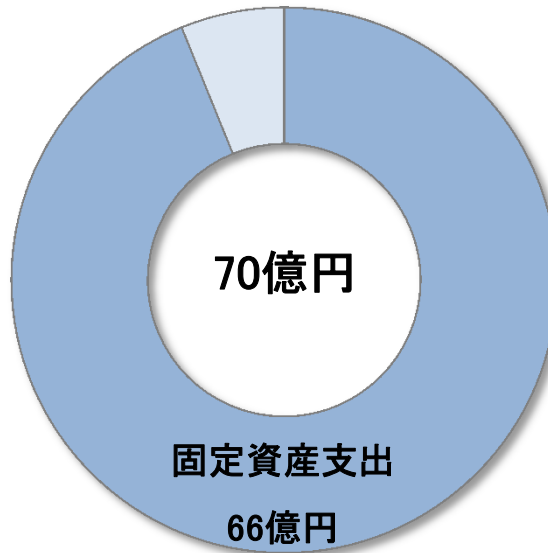
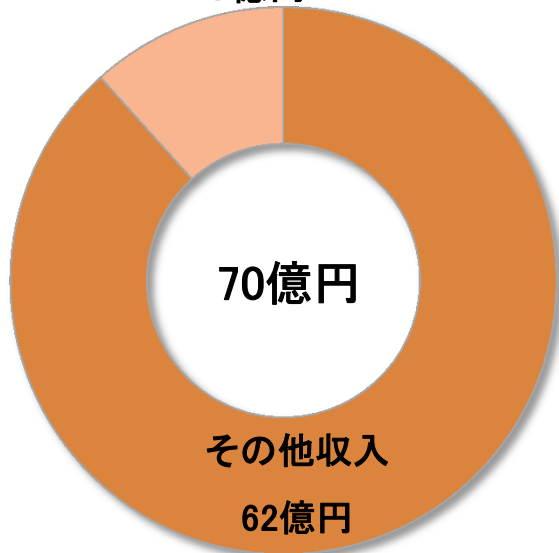
(4) 収支状況の推移



(5) 資本的収支のあらまし

【収入】 補助金等収入
8億円

【支出】 借入金等償還
4億円



東京都赤十字血液センター



宇都宮大通り献血ルーム

資本的支出の内訳

内 容	金 額
土地の購入	0.3億円
血液センター、献血ルームの施設整備等	42.0億円
成分採血装置、血液保管庫などの整備	10.8億円
移動採血車、献血運搬車などの車両整備等	7.4億円
血液事業情報システム等	5.5億円
借入金等の償還	4.0億円

今後の方向性・課題

項目	目標	これまでの取り組み	今後の方向性・課題
事業運営体制の充実	広域的・効率的な事業の推進	事業効率の改善、平成26年度対比138億円の収支改善	社会環境の変化に対応可能な事業運営の追求、日常的なカイゼン(改善)活動の浸透
献血者の確保対策	若年層の献血率向上	年代別目標値には未達	年齢層に応じた確保対策と献血リピーターの拡充
血液製剤の安全性向上	新興感染症等への対策、輸血副作用の軽減	安全性向上に寄与する新規血液製剤の導入準備	新規血液製剤の導入、新たな検査法の導入